



# ポーランドのケイビング事情

落合 直之 (OCHIAI, Naoyuki)※

## はじめに

9月25日(金)、仕事のために日本を訪れていたポーランドのワルシャワ・スペレオクラブの会長であるトマシュ・フェドロヴィチ (Tomasz Fiedorowicz) 氏と東京で会いました。

私は昨年夏、フランスで開催された国際洞窟救助ワークショップに参加しました。ワークショップにはポーランドからも3名参加しており、彼らからポーランドもフランスには遠く及ばないが、ケイビングがそれなりに活発に行われているとのことを聞きました。

今般、トマシュ氏よりポーランドのケイビング事情を詳しく伺ったので、ここにかいつまんで紹介します。

## ポーランドのケイビング事情

3,000以上の鍾乳洞がポーランド南部地方の国立公園 Tatras に主に位置しています。同地域一帯は山岳地域でもあり、年平均気温は2～4度です。また、洞口までのアプローチは往々にして遠く険しい模様です。最長の横穴は「Jaskinia Wielka Śnieżna(Wielka Śnieżna system)」(総延長23,619m)であり、「Wysoka - Za siedmiu progami」(同11,600m)、「Śnieżna Studnia」(同11,000m)と続きます。また、最深の竪穴は「Jaskinia Wielka Śnieżna」(高低差-824m)であり、「Śnieżna Studnia」(同-763m)、「Bańdzioch Kominiarski」(同-562m)が続いています。

トマシュ氏が所属するワルシャワ・スペレオクラブ (Speleoklub Warszawski) は、ポーランド内で最大のクラブです。1954年設立で、現在会員数を120名擁しており、10代から70代の現役ケイパーが居ます。ポーランドのケイビング組織は、ポーランド山岳協会 (The Polish Alpine Association) の下部組織であるケイビング評議会 (The Caving Committee) に加盟しているとのこと。

ポーランドの石灰地層は限定的なものであるため、高深度や高長尺な洞窟は望めません。そのため、ポーランド・ケイパーは古くから周辺国(オーストリア、チェコ、スロベニアなど)の洞窟を積極的に探検・調

査を行ってきました。近年では、ハワイ、パプア・ニューギニア、メキシコなどに遠征隊を派遣しています。また、オーストリアの「Lamprechtsofen」(高低差-1,682m)を探検したのもポーランド・ケイパーです。本洞窟の下の洞口から人工登攀(高度差で800m以上)にて上層部へと探検を続けて行き、上の洞口からの洞窟と接続させ、発見当初は世界最深の穴にしたという成果もあげました。

また特徴的なのは、ポーランドではある程度高いスキルを必要とする洞窟を探検する場合は、日本の洞窟学会にあたる組織であるケイビング評議会 (The Caving Committee) が発行するライセンスを取得せねばならないことです。ライセンスの取得のためには、1年間通年にわたって行われる「ケイビング訓練コース」に参加して、所定の訓練を受けねばなりません。訓練は探検技術、SRT、測量、レスキュー、登攀(エイドクライミング)などです。勿論ライセンスだけのためではなく、安全に洞窟探検するための訓練を施しています。

この制度のお陰なのか、ポーランドでは洞内では消防等が出動するような事故が殆ど無いようです(滑ったり、転んで擦り剥いた程度の軽症はある)。しかし、過去5年間は無事故とのことであり、しっかりとした教育・訓練によって、必要なスキルを保持しているケイパーのみが洞窟探検を行っているため、事故が発生するリスクが格段と低いのではないのでしょうか。

ちなみに、ポーランド的SRT技術の一つを紹介すると、懸垂下降を行う際には、StopもしくはShunt + Simpleを使用し、Simple使用時に落石を受けて気を失っても大丈夫なシステムを用いていること。これは落石が多い環境でのケイビングを強いられているせいかもしれません。

ところで、外国人がポーランドでケイビングを行う場合は、同様なライセンスを保持しているかを問われるわけですが、ワルシャワ・スペレオクラブのエンドース(お墨付き)があれば、大丈夫とのこと。

## おわりに

トマシュ・フェドロヴィチ氏によると、ポーランド